

流域の概要

安間川流域では、過去から多くの浸水被害に見舞われ、**近年、平成10年9月洪水でも床上21戸、床下107戸の浸水被害**が発生。

- 近年の局地的豪雨の顕在化、甚大な水害の多発
- 静岡県における時間雨量50mm以上の発生回数は、
 - ・過去（S57～H13）の10ヵ年での平均発生回数は11回
 - ・近年（H14～H23）の10ヵ年での平均発生回数は18回 → **約1.6倍**

- 市街地の拡大により、流出量が増大 → **浸水危険度が増大**
 - ・流域内人口（長上地区）16,858人（S50）→25,360人（H22） **約1.5倍**
 - ・河川整備（計画1/10）
 - ・下水道整備（雨水：計画1/7）



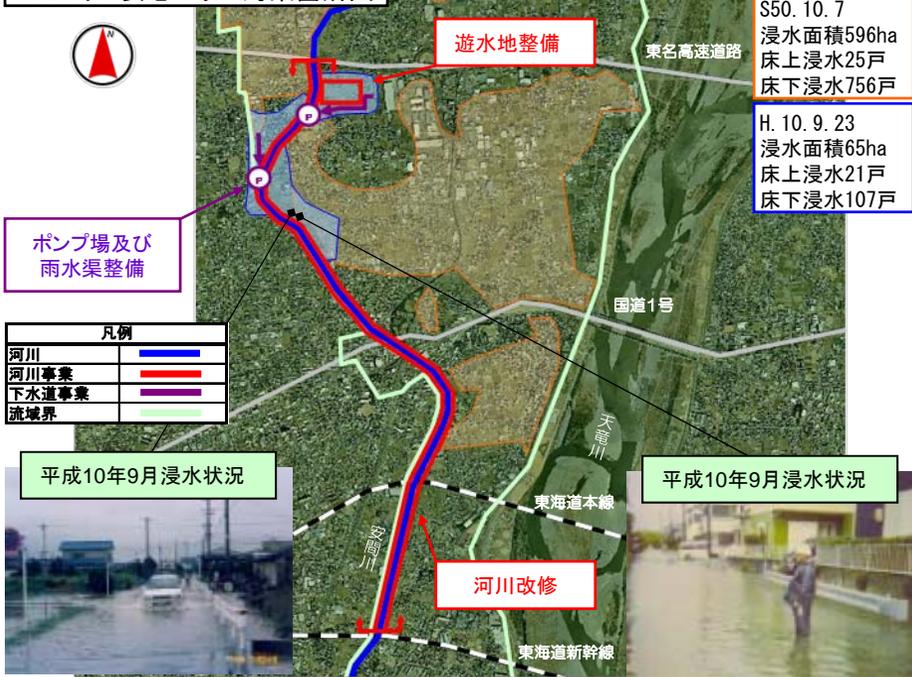
【浸水被害の主な要因】

- 流域の市街化が進み、流出量が増大。
- 地形的要因により、河川事業と下水道事業との連携した整備が必要。
- 都市化の進展等により、河川改修に多大な費用と時間を要する。

⇒流域における治水対策を関係機関が一体となり効果的に組み合わせ推進する必要がある

安間川流域の総合的な治水対策について、静岡県・浜松市・住民代表からなる「安間川遊水地整備対策協議会」で検討し、関係機関が対策を実施

100ミリ/h安心プラン対策箇所図



安間川遊水地整備対策協議会（H17.12.14～）

組織	部局
県関係	浜松土木事務所
市関係	浜松市土木部、上下水道部
住民	地区自治連合会、自治会
その他	土地改良区、浜松市議会議員
オブザーバー	静岡県議会議員

取組内容

- 戦略的・効果的な対策の実施
 - ・河川事業と下水道事業との連携による一層の効果的な整備の推進
 - ・想定を超える豪雨に対し、防災情報の提供等のソフト施策により被害軽減を図る
- 対策効果の早期発現に向けた進捗管理
 - ・関係機関・住民代表による定期的な進捗管理

取組効果

期間内に関係機関が対策を実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対して流域で床上浸水被害を概ね解消する。